

風水害

台風や大雨などによる風水害は、わたしたちに何度も大きな被害をもたらしています。普段から気象情報に注意し、早め早めの対応をこころがけて命を守ることを最優先に行動をしましょう。



大雨情報をキャッチ!こんなときのわが家の安全対策

■ 各大雨情報の発表基準

大雨注意報	大雨警報	記録的短時間大雨情報
大雨による災害が発生するおそれがあると予測される場合。 【発表基準】 表面雨量指数 15以上 土壌雨量指数 108以上	大雨による重大な災害が発生するおそれがあると予測される場合。 【発表基準】 表面雨量指数 28以上 土壌雨量指数 137以上	土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながるような猛烈な雨が降っている場合。 【発表基準】 1時間雨量 110mm以上
大雨特別警報 台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合に発表します。大雨特別警報が発表された場合、重大な土砂災害や浸水害が発生するおそれが著しく高い状況が予想されます。特に警戒すべき事項を標題に明示して「大雨特別警報(土砂災害)」、「大雨特別警報(浸水害)」,又は「大雨特別警報(土砂災害、浸水害)」のように発表します。	雨が止んでも重大な土砂災害等のおそれが著しく高い場合には発表を継続します。 ※ 大雨特別警報が出た時には避難を完了しておきましょう。 【発表基準】 48時間降水量 536mm 3時間降水量 191mm 土壌雨量指数 298	

雨の強さと降り方 (1時間雨量:mm)

10mm 以上~20mm 未満	20mm 以上~30mm 未満	30mm 以上~50mm 未満	50mm 以上~80mm 未満	80mm 以上~
ザーザーと降る	どしゃ振り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる

風の強さと吹き方 (平均風速:m/秒)

10m/秒以上~15m/秒未満 やや強い風	15m/秒以上~20m/秒未満 強い風	20m/秒以上~30m/秒未満 非常に強い風	30m/秒以上~ 猛烈に強い風
風に向かって歩けにくくなる。傘がさせない。	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険	何かにつかまっていなくて立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある	屋外での行動は極めて危険

台風 (平均風速:m/秒)

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

大きさ	風速 15m/秒 以上の半径	強さ	最大風速
大型 (大きい)	500km 以上~800km 未満	強い	33m/秒 以上~44m/秒 未満
超大型 (非常に大きい)	800km 以上	非常に強い 猛烈な	44m/秒 以上~54m/秒 未満 54m/秒 以上

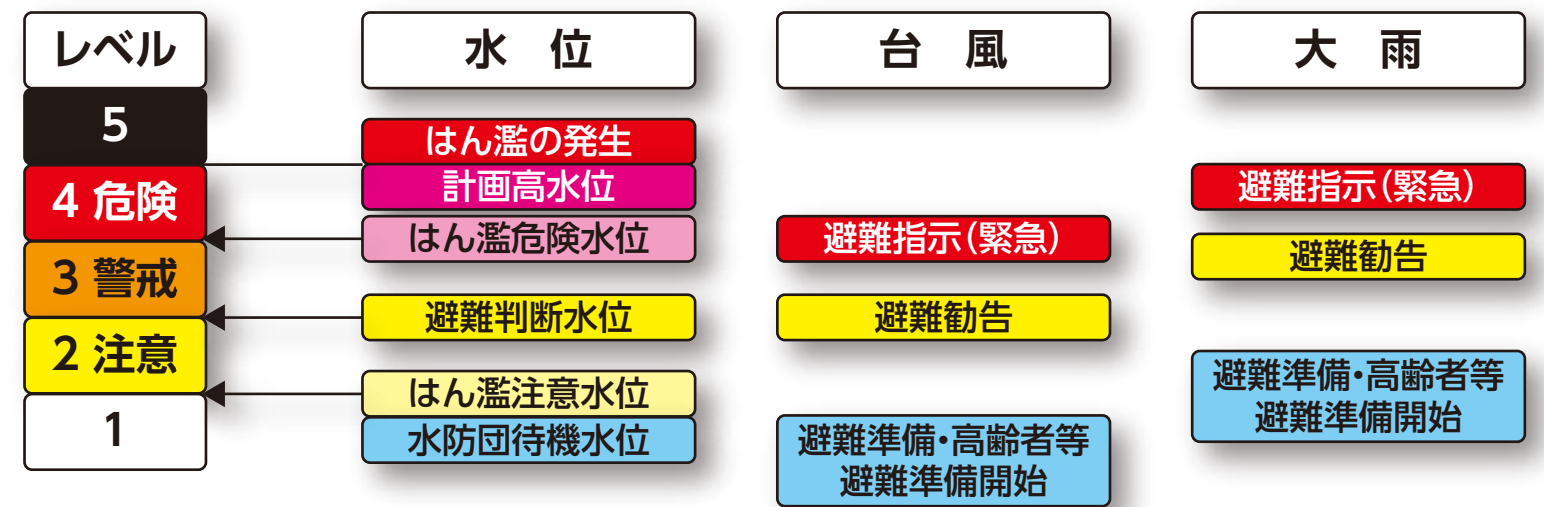
集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。発生の予測は比較的困難で、河川のはん濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 市や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 飲料水や食料を最低3日以上確保しておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備する。

常に気象情報には、注意しておきましょう!

「河川水位」と「飯塚市が市民に提供する情報」の関係



● テレビ・ラジオをつけて情報を収集しましょう。デジタルテレビのdボタンを押して下さい。
 <確認方法> 1. テレビをつけて、リモコンの「dボタン」を押す
 2. 気象情報や避難情報、河川水位情報を選択し「決定ボタン」を押す
 3. 見たい市町村を選択し「決定ボタン」を押す

- 避難する時の注意事項
- 歩ける深さに気をつける!**
歩ける深さは平均約50cm。(大人の場合)水がひざまで来たら助けを呼び、高い所で救助を待ちましょう!
 - 履き物に注意!**
裸足、長靴は禁物です。ひもでしめられる運動靴が良いでしょう。
 - ロープでつながる!**
はぐれないようにお互いの身体をロープで結んで避難しましょう! また、水面下には危険が潜んでいます。長い棒を杖がわりに安全確認をして下さい。

川のはん濫

雨量の増加によってもたらされるはん濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水はん濫」と、排水が間に合わず、排水路などからあふれ出す「内水はん濫」の2タイプがあります。河川や下水道、用水路などの水が集まり流れる場所(標高の低い地域)では、特に注意が必要です。

外水はん濫とは

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。はん濫が起きると一気に水かさが増し、勢いのついた濁流がおそってくるので、最大限の注意が必要です。

内水はん濫とは

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要です。

河岸侵食とはん濫流について

洪水時には、河岸侵食や越水に起因して堤防が決壊すると、河道内の水および土砂は堤内にはん濫し、人的、経済的などさまざまな甚大なる被害が生じます。急流河川では、はん濫流の流速は家屋などの構造物に衝撃をもたらすほど速く、はん濫流が一気に広がるため、特に危険です。洪水のはん濫は、浸水の深さだけでなく、流れの速さにも注意が必要です。

河岸侵食

はん濫流